

## 研修報告

### 「第16回在宅医療講座」

#### 「新型コロナウイルス感染症陽性疑いや陽性者に対する訪問介護の実際 ～訪問介護事業所からの報告～」

座長 戸根内科・神経内科医院 院長 戸根幸太郎氏

1. 陽性疑い者の訪問介護を通して complete 管理者 福山さやか氏
2. 陽性者の訪問介護を通して ヘルパーステーションおおぞら須磨・駒どり巡回サービス須磨南  
管理者 徳山聡美氏

コメント：林山クリニック 梁勝則氏 訪問看護ステーションふくろう 梶川英子氏

日時：令和4年4月21日（木）16時30分～17時30分

場所：オンライン（ZOOM）・須磨区医師会館メインホール 参加者：42名

内容：福山さんより、陽性疑いのあった利用者の事例を用いて、事業所としてどのように考え、対応をしたのか教えていただきました。また、各スタッフの考えや、訪問を行う場合のスタッフの家族への影響等の確認を行ったこと。マスクができない利用者への対応や利用者がコロナ陽性や濃厚接触者となった場合の対応については、事業所作成の感染対策マニュアルにそって確認し、事業所としてどの様に対応すれば現場対応可能なのかシミュレーションを実施していることを教えていただきました。

徳山さんよりは、コロナ陽性者への服薬支援の事例を用いて訪問介護の実際を教えていただきました。訪問前の事業所の取組としては、陽性者の訪問担当を1人にするため、担当のサービス提供責任者に家屋の状況も含めた詳細な聞き取りを実施したこと。また、家族には体温計や服薬に使用する水や紙コップ、廃棄用ごみ箱の設置など事前に協力を依頼したこと。1週間分の感染対策の物品を準備しPPE着脱の練習をしたこと。公共交通機関を利用せず、直行直帰としたことを教えていただきました。実際の訪問では、様々な想定外なことが起きたこと、PPE着脱場所と廃棄場所の確保が困難であったこと、また保健所への報告のあり方等の課題を教えていただきました。「事業所としてどうしたら安全に訪問できるか」を常に考え取り組まれていました。

二人のご報告の後、保健センターの保健師、医師、訪問看護師からコメントをいただき、保健センターの現状と連携方法について、着脱場所の確保や廃棄方法等、訪問のポイントについてアドバイスをいただき、情報共有しました。

【参加者より】「臨場感溢れるお話で、これから経験するかもしれないコロナウイルス感染症の方への訪問に備えとなった」「日々のシミュレーションも大事と改めて感じた」「須磨区の訪問介護や訪問看護の現場でのかかわり、プロ意識を強く感じる事が出来た」「現場の声を聞いてお答えいただいた保健所の方のお話も普段は聞けない貴重なお話だった」

二人の貴重な報告を受け、在宅の新型コロナ感染症療養者への訪問介護の需要が高まる中、安心・安全な訪問が実施できるよう、主に介護職向けの感染対策の研修を実施しました。

### 「新型コロナ感染症療養者訪問時の感染対策とケア」

講師：北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長 藤田 愛氏  
慢性疾患看護専門看護師 ヘルスクエア・マネジメント修士(専門職)



日時：令和4年7月27日（水）15：00～16：30

場所：須磨区医師会メインホール 参加者：14名

内容：神戸市の第7波の感染者の現状とともに、今後、在宅では要介護者でも状況が安定していれば在宅療養、また病状が悪化しても入院できない事も考えられること。コロナ陽性となった時にのプランをあらかじめ考え、計画をたてておくことが必要となることを教えていただきました。

陽性者への訪問については、訪問前の電話で、マスクの着用、換気、検温、SP02（安静時、体動時の値）1分測定などの協力をいただいていること、会話はマスク、シールドで遮られているので、短くはっきり話す工夫があること、また基本的に15分訪問を目安に、最高の15分を考え、優先することを見極めること等、安全に訪問するための様々なポイントや工夫を具体的に教えていただきました。

また、食事の買い物だけでも訪問介護員に担ってもらおうと大変助かると感じることはあった。「何かできる事はないか」という事を一緒に考えて頂けたらとも話されていました。

PPE実演では、訪問前の訪問物品の準備について・N95装着のポイント・訪問時、ドア開閉時の注意点・玄関での清潔ゾーンについて・防護服の着脱のポイント・手指衛生のポイントについて教えていただきました。第7派の感染拡大中での研修であったこともあり、参加者はPPEの実演では動画撮影を実施しながら熱心に学ばれました。

研修後のアンケートは「文字だけではわかりにくかったので、とても勉強になった」「PPEについて、在宅ならではの工夫の理解ができた」「実演をみることでイメージできた」等、大変好評でした。

「第17回 在宅医療講座」

「高齢者に多い皮膚疾患とスキンケアについて」

座長 戸根内科・神経内科医院 院長 戸根幸太郎氏

- 1. 高齢者に多い皮膚疾患とスキンケアについて 石原医院 院長 住本佳代子氏
- 2. 外用薬の使用について ~塗り方実演を通して~せせらぎ薬局 管理者 友金香緒里氏

日時：令和4年7月7日（木）17時30分～18時30分

場所：オンライン（ZOOM） 参加者：34名

内容：住本先生より、様々な皮膚科疾患（紅斑、重症薬疹、蜂窩織炎、紫斑、带状疱疹、疥癬、マダニ、メラノーマ等）や高齢者の頭皮や臀部・陰部のトラブルへについて、そして高齢者のスキンケア、爪のケア、軟膏の効果や留意点についてご講演いただきました。

友金先生より、外用薬について、保湿の必要性とともに、保湿剤を塗る量及び量に応じた塗布範囲を実演していただき、塗り薬の保存期間と管理、外用薬の混合時の特徴と混合添加物による注意点等についてもご講演いただきました。

【参加者より】「経験をふまえておられるお話は、現場に直結すると感じました」「薬の正しい塗り方を学べた」



あらためまして！医療介護サポートセンターを紹介します！

須磨区医療介護サポートセンターは開設して6年目になりました。「医療介護サポートセンター」は地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。須磨区医療介護サポートセンターの事業について、あらためてご紹介いたします。地域の専門職の皆様が様々な場面でサポートセンターをご活用いただけると幸いです。

第1回目は「相談窓口」についてご紹介いたします

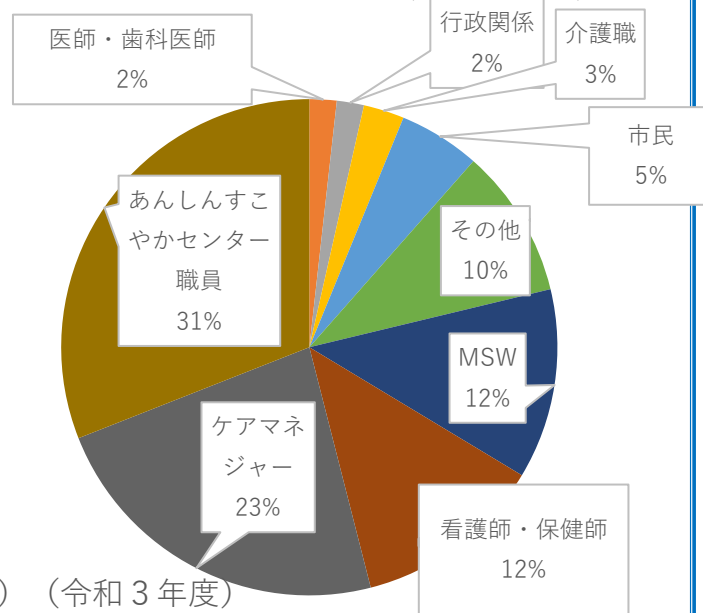
相談窓口では医療・介護・福祉の専門職より、医療介護についての相談を受け付けています。

令和3年度の相談件数は113件/年でした。昨年度一番多い相談内容は「医療機関についての相談」でしたが、ケースの背景には様々な社会的問題を抱えた困難事例が増えてきていると実感しています。

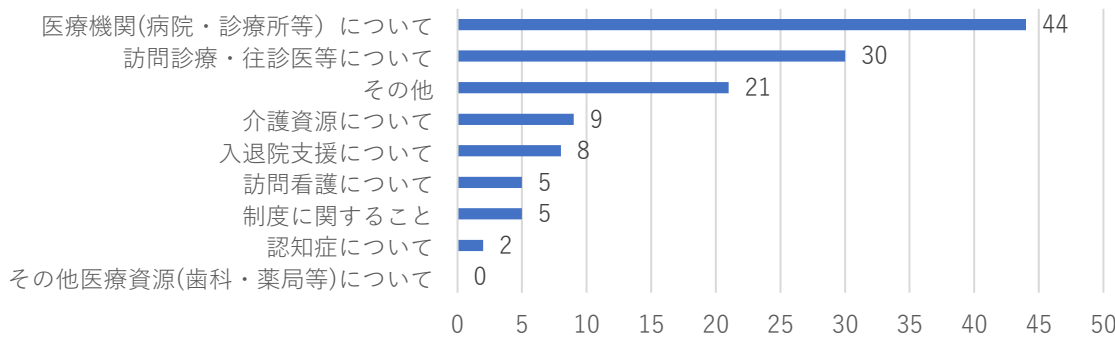
医療介護資源の情報提供だけでなく、相談者が相談をする中でケースの整理とともに、利用者支援について共に考えていくことができるようにと努めています。

地域の医療・介護の課題・困りごと等も含めて、お気軽にご相談ください。

相談者内訳（令和3年度）



相談内容（複数選択）（令和3年度）



サポートセンターからのお知らせ

第18回在宅医療講座  
「がん末期患者の在宅看取りについて林山クリニック」  
講師 院長 梁勝則先生

座長 友岡泌尿器科医院 院長 友岡 義夫氏  
日時：令和4年9月29日（木）16：30～17：30  
場所：オンライン（ZOOM）90名

※神戸市医療介護サポートセンターのホームページでもご案内しています。



# 須磨区の特化型施設のご紹介

一般社団法人ことばの道 総括責任者 安居 和輝さん  
言語聴覚士・修士（感覚矯正学）

## ことばの問題は目に見えない…だからこそ、見える形に！

私たち「ことばの道」は、**全国初!!**子どもから大人までの言語リハビリに特化した多機能型施設として2021年4月に須磨区高倉台に開所しました。元々、2008年より北落合で失語症デイサービスを行っていたのですが、定員数の拡充と失語症の方の働く場所や子どもたちの支援の必要性を感じ、新たな場所で生まれ変わることにしました。

気づけば移転して早1年半!!私たちのこれまでの、そしてこれからの挑戦をご紹介します♪

### <挑戦①> 失語症の方のQOL向上への取り組み

私たちは、生活期失語症者向けのQOL評価表 **LAQOL-11(Life stage Aphasia QOL scale-11)**を開発し、科学的根拠に基づいた支援に向けて取り組んでいます。

### <挑戦②> 多機能型施設の強みを生かした取り組み

多機能型の特徴は**3S(世代間交流、障がい間交流、職種間交流)**です。

子どもたちから高齢者の方へクリスマスプレゼントを渡したり、失語症の方が『入学おめでとう』のメッセージを送ったりと素敵な交流を展開しています。



### <挑戦③> 地域への繋がりや拡がりをもった取り組み

毎週月曜はKOBE 須磨きらくえんにて『ことばの道喫茶』を出店し、就労支援で作っている**自家焙煎珈琲**を販売しています。一粒一粒丁寧に選別した純度の高い珈琲です♪その他、毎年言語聴覚士を目指す学生やトライやるウィークの中学生の受け入れ、利用している子どもたちとの山登り、失語症の方との日帰り旅行、健康フェアの開催など...施設の枠を超えた活動を行っています。これからも様々な企画を検討中!!乞うご期待ください!




ことばの道の理念である“**人と地域の未来のために「繋ぐ」「感じる」「極める」**”を掲げ、言語コミュニケーション障がい児者のよりよい社会の実現に向け、これからも**須磨から全国へ**発信を続けていきたいと思っております!須磨区を一緒に盛り上げていきましょう!!!

\*言語聴覚士(ST)は、「話す」、「聞く」、「食べる」といった面に問題のある人々をリハビリによって支えるスペシャリストです。

\*ことばの道では、主に失語症や高次脳機能障がい、構音障がい、自閉症スペクトラム障がい、ADHD、知的障がい、場面緘黙症、吃音など様々な言語・コミュニケーション障がいの方の訓練および支援を行っています。



 一般社団法人ことばの道

\*デイサービス(地域密着型通所介護・共生型生活介護)

\*就労継続支援B型

\*児童支援(児童発達支援・放課後等デイサービス)

\*居宅介護支援事業所

<住所>神戸市須磨区高倉台6丁目19-1

<TEL>078-737-6565

<FAX>078-737-6566

<Mail>kotobanomichi@arrow.ocn.ne.jp



<HP>



KOBE須磨さらくえん居宅介護支援事業所  
ケアマネジャー 菊地克暢さん

ケアマネとして働き始めて丸7年が経過しました。ケアマネは、常に社会と共に変化していく仕事であると実感し、まだまだ未熟だと思う日々ばかりです。医療介護サポートセンターの会議や研修に参加することで、業務以外で多職種の方との関りも増え、様々な価値観に触れることができ、勉強させていただいています。

### 【実例】

約6年前にパーキンソン病と診断され、現在も一人暮らしを続けている元看護師の女性（以下Aさん）の方です。ケアマネとして関わることになったのは約5年前です。当時、要介護2の認定で現在は要介護3の認定を受けています。近所に住む娘様がお仕事をしながらAさんの介護をしています。Aさんの自慢は若いころから歩くことを大切にしていた健脚と、今なお健在の自前の歯で、8020を悠々とクリアしています。

ケアマネと多職種連携というテーマではありますが、多職種と多くやり取りしているメインは娘様になります。ケアマネは娘様からお話を伺い、娘様を介して多職種の意見を聞いたり調整したりする立場となっています。もちろん多職種と連携する場面はケアマネもありますが、家族が担うことができる役割については、家族に役割を担って頂くことで、家族は多職種と情報交換ができ、安心して介護ができるのではないかと考えています。

現在、医療サービス：パーキンソン病の専門医、訪問医、訪問歯科、薬剤師、訪問看護・リハビリ（医療保険）等、介護サービス：訪問介護、通所介護が入っており、インフォーマルサービスでは民生委員、近隣住民など多くの関りがある方です。過去にアクシデントがあり、骨折して1か月近くショート利用したこと、病気で入院した時は偶然にもAさんの知り合いが看護師として働いていたこともあり、安心して入院生活を過ごせたことがありました。療養場所が、施設や病院になることはありますが、在宅の多職種がその度に支援を引き継ぎ、体制を整えることで、無事に在宅復帰を果たせています。

Aさんの場合は、パーキンソン病以外の疾患があり、薬の調整も複雑で薬に対しての耐性も弱く、細心の注意を払わないといけないのですが、娘様は専門医や訪問医、薬局の薬剤師とも相談をしながらAさんに合う薬調整を図っています。普段の体調等の確認は訪問看護師に相談しており、「どの方も相談しやすい。関りを持ってくれる方々が皆さんいい方なので母も安心して過ごせてます」というお言葉も頂いております。ケアマネジャーは、娘様のお話を伺いながら、本人の望む暮らしを一緒に考えながら対応をしています。

今、Aさんはパーキンソン病の進行や他の影響により、不安定な状態が続いています。自宅で過ごしたい想いがありますが、いずれは施設入居も考えている方です。入るならばこの施設がいいという想いもあり、娘様もAさんの想いを尊重してあげたいと考えています。施設に入居となると、全ての関係がリセットされることも多くあります。Aさんが願う施設に入居することができれば、在宅でできた職種との繋がりを直接的、間接的に継続できる職種もあります。在宅で築いてきた繋がりを残すことができれば、施設に入居してもその人がその人らしく過ごせる大きな力になるのではないのでしょうか。施設の担当者との連携はケアマネが主となって動く必要があるので、本人・娘様のお話を伺いながら、在宅で受けている多職種の支援が継続できるよう、施設との連携も頑張りたいと思います。

最後に、老年期のさらに後期の段階では様々な出来事があり、過ごす場所や人との関りなどの変化が起きやすい時期かと思えます。そのような時期にケアマネジャーは関わらせていただくこととなるので、とても重要で難しい役割かと思えます。私は、その方の人生・生活・生命の3つのLIFEを念頭に置き、家族・多職種と協力をしながらサポートできるケアマネジャーでありたいと思います。